

「ほんとうの さいわいは 一体なんだろう」

こう ちょう み むら み のぶ
校 長 三 村 美 延

近年、ウェルビーイング (well-being) という言葉をよく耳にします。SDG s の 17 の目標のうち 3 番目の目標「すべての人に健康と福祉を (Good Health and Well-Being)」でも使われています。過去には、1948 年に効力を発した「世界保健機関 (WHO) 憲章」中で、健康を定義する際に用いられています。

手元の英和辞典でひくと、【well-being】は「幸福、福利、健康」という意味のようです。ここ数年は様々な場面で「幸せ」に近い意味で使っていることが多いように感じます。

「Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity. 」

健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること (世界保健機関憲章より抜粋、日本 WHO 協会訳)

子どもたちにとってのウェルビーイングとは、何でしょう。勉強や運動が「できるようになった」と実感すること。友達や家族と楽しい時間を過ごすこと。自分の考えや行動が承認される (褒められる、喜ばれる) こと。人の役に立っていると感じられること。… 私たちはこうしたことを考えながら、そしてそれが、誰一人取り残さず、全ての子どもたちがそう感じられるようにと、教育活動を行っています。

先日、私は宮沢賢治さんの生まれ故郷花巻に行くことができました。花巻市内を車で走り、また、資料館等で土地の歴史に触れてみると、なるほど、感性豊かな数々の作品を生み出し、また、地元の農民と共に生きた賢治さんの生き様は、美しい郷土とそこに住む人々への深い愛情の表れなのだと実感できます。

「けれどもほんとうのさいわいは一体何だろう。」これは、賢治さんが書いた「銀河鉄道の夜」(新潮文庫)のジョバンニの言葉です。余計なものをそぎ落とし、大切なものを追求したその先に、本当のさいわいが見えてくるような気がします。さて、針ヶ谷小学校の子どもたちは、浦和の地での暮らしから何を感じ取り、どんな未来を形づくっていくのでしょうか。

明日(7月1日)は本校体育館で育成会主催行事が行われます。PTAや多くの地域の方々のご協力をいただき、子どもたちも大勢参加して、七夕飾りを作ります。子どもたちは短冊にどんな願いを書くのでしょうか。今年は天の川を見上げながら、保護者や教職員、そして地域の皆様も含めたすべての方々のウェルビーイングについて考えてみようと思います。

まもなく長い夏休みが始まります。皆様お健やかに過ごしてください。1学期間お世話になりました。

(令和5年7月)